

令和2年度第3回寒川町生活支援・介護予防サービス基盤整備推進会議（書面会議）の議事に対するご意見一覧

別紙

2. 生活支援コーディネーター活動報告について

No.	ご意見
1	意見なし。
2	生活支援コーディネーターの活動では公民懇談会や情報交換活動を継続してきた事により住民との関わりが深くなっているように感じます。コロナの話題から現在、身近になっている問題や課題の掘り起こしが図られていると感じました。今後も地域との連携や地域課題の掘り起こしの為にも活動の継続をお願いしたいです。
3	ひとりぐらしの多い昨今ひとりで作ってひとりで食べるのも少し寂しい事もあると思います。お弁当を届けて頂くのも良いと思いますが、届けた方が少しだけお話をする事が出来たら良いと思います。家から一歩出て外の空気にふれるのも良い。
4	意見なし。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体の通いの場を増やす 高齢者が高齢者を支え合う必然は分かりますが、通いの場を増やすのは困難と考えます。</li> <li>・町内資源マップについて 建物を含めた支援が必要と考えます。公園の大小もありますし、既団体が使用しているところもあるのではないかと考えます。（利用実態把握）</li> </ul>
6	<p>1. 生活支援・介護予防サービスについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の自治会に対処しているが、生活支援・介護予防にどう結びついているのか、対処方法について議論が必要ではないか。</li> <li>・外国人が自治会加入されていることは、新たな住民自治が期待され非常に良いと思う。</li> <li>・高齢者の食事準備やゴミ出し等様々な生活課題の対処方法を、新たな手法システムを地域で作ることが大事で、SCの役割は非常に大事。</li> <li>・シニアクラブの諸活動は良いが、持続可能なシステムをどう作るかが、町やSCを中心に考えるべき。</li> </ul> <p>2. 住民の通いの場を、地域に少しずつ増やす</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最近、高齢者からコロナ禍で、どこにも行けないとかつまらないとかという声を聞く。コロナ禍で厳しいとは思いますが、高齢者や子ども達が集まれる場所の確保（民間住宅等）が必要と思う。</li> <li>1、2とも地域全体の実態調査をして、今後に繋げる必要がある。</li> </ul>
7	Zoom会議を活用した事業企画について、機会が増えていますが、まだ限られた人しか利用出来ていないと思います。地域福祉フォーラムを切っ掛けにZoomに触れる機会を提供するのは良いアイデアだと思いました。

8	<p>・自治会役員を決めるのはとても大変だと思います。まして、今は退会する方も増えています。一人では大変でも、皆が協力、バックアップすれば、たとえ自治会長をやめても、相談役や顧問などという形で残ります。どこの自治会も高齢化が進み、色々な問題を抱えています。</p> <p>・お弁当を届ける飲食店がみつければ。</p> <p>・車を使った移動の支援はとても良いと思います。ただし、どこまで出来るでしょうか。</p> <p>・コロナの影響で集う形は難しいと思う。なかなか今の状況で何が良いものか思い浮かばない。</p>
9	<p>通いの場を増やすことはとても重要ですが、コロナ禍でどうするのかを話し合うことを是非開始していただきたいと考えます。訪問する、食事を届けるなど、今出来ることから開始していただきたい。</p>
10	<p>意見なし。</p> <p>※活動は大変に行われていて、コーディネーターに敬服いたします。多くの団体や企業、個人の助援を利用して活動の幅を広げていけたらいいと感じます。</p>

### 3. 寒川町社会資源マップについて

No.	ご意見
1	<p>資料2について 高齢者向けには黒の色が薄い。濃くした方が見やすいが裏面が透けてしまうので紙を厚くした方が良い。</p> <p>資料3について 意見なし。</p>
2	<p>資料2について 賛成です。</p> <p>資料3について 意見なし。</p>
3	<p>資料2について マップはとても良いと思いますが、写真がもう少しきれいに出来たらと思いますが、紙質が変わったらどうでしょうか。</p> <p>資料3について 通いの場は自分達の近くにある事と気軽に行ける事がよい。ひとりで自由に参加出来たら良い。</p>
4	<p>資料2について 緑地はマップにも緑字で（い、ろ、は、に）記入する。 緑道は黄色の文字でははっきりしない。文字の色を変える。</p> <p>資料3について ①シニアクラブ連合会及び15単位老人クラブ（連絡先）の一覧表を作成する。 ②自治会のサロン（社協からの補助）の紹介 ③こども食堂（高齢者も通える食堂の所もある）、カフェの紹介 ④県年金受給者協会藤沢支部、寒川分会（7つのサークルあり）の紹介 ⑤レクリエーション協会のサークル及び公民館活動のサークルの紹介 ⑥町及び社協のボランティアサークルの紹介 ⑦体育館の無料開放（種目）の紹介</p>
5	<p>資料2について 建物を含めた支援が必要と考えます。公園の大小もありますし、既団体が使用しているところもあるのではないかと考えます。（利用実態把握）</p> <p>資料3について 意見なし。</p>

6	<p>資料2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・賛成だが、公園、緑道のほか名所、旧跡、青少年広場等の記載も必要ではないか。</li> <li>・各マップに記載されている公園等との距離や各駅からの距離など、縮尺をいれて、歩いた距離が分かるマップにしたら良いと思う。</li> <li>・マップに写真を入れずに、裏面で公園等の紹介をした方がマップが見やすいのではないか。</li> </ul> <p>資料3について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通いの場が有るところは良いが、無いところは排除なのか、どうするのか、町内全域を調査し検討すべき。</li> </ul>
7	<p>資料2について</p> <p>公園の写真は⑩までなのでしょうか。構成上やむを得なかったのでしょうか。公園の写真が載っていると雰囲気が分かりやすいと思いました。またトイレがあることの記載は良いと思いました。なお、さむかわ中央公園にもトイレはあります。</p> <p>資料3について</p> <p>こういう物があると喜ばれると思います。情報の内容も細かく書いてあるので、参加してみようと思う人は増えるのではないのでしょうか。高齢者ガイドブック等と一緒に配布出来たら良いと思います。</p>
8	<p>資料2について</p> <p>岡田にある青少年広場が地図にないようですが、シニアの方々がグランドゴルフやゲートボールなどでよく行く所なので、入れてはどうでしょうか。</p> <p>資料3について</p> <p>シニアの方が色々と参加出来る「通いの場」は情報が少ないようなので、公開コーナーは良いと思います。これを見て1人でも参加者が増えればよい。</p>
9	<p>資料2について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車いすでの参加が可能か等、バリアフリー情報を入れると良いと思います。</li> </ul> <p>資料3について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前記の意見と同じです。</li> </ul>
10	<p>資料2について</p> <p>意見なし。手作り感いっぱいです。</p> <p>資料3について</p> <p>意見なし。</p>

4. 令和3年度に立ち上げていきたい生活支援・介護予防サービスについて（岡田県営住宅地域における生活支援サービスについて）

No.	ご意見
1	3の弁当は配布の方が高齢者は有難いと思う。購入に動ける人は自分で行けます。
2	掘り起こした内容から「お弁当でつながろう。」は凄く良いと思います。コロナ自粛の中、地域ニーズと地域をお弁当でつなげていく発送は良いと思います。また、コロナの中、緊急連絡先カードも良いと思います。
3	自分が誰か話しやすい人が作れると良いと思います。また相談をされやすい人になって話しかけるのも地域のつながりになれるかなと思います。
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認のための定期的な巡回システムの確立</li> <li>・業者（例えば町の弁当屋に依頼し）による弁当の出張販売（毎日でなくても）</li> <li>・弁当の注文を取り業者に配達してもらう</li> <li>・集会所で料理教室を定期的を開く</li> </ul> 以上のような困っている身近なことから始めて軌道にのせ、生活支援のメニューを広げていく。
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私の緊急連絡先は、個人情報を出し過ぎることは悪用の恐れがあり、危険。取り扱いに注意が必要です。ご近所の声掛けしかないと考えます。</li> <li>・町の補助をうけほとんどボランティアで運営されていた団体があつた。解散された理由等参考にされたらと思います。</li> </ul>
6	1. について ・狭間の課題が見えない。 2. について ・担い手はそもそも地域で見つけ出すものではない。個人、団体、企業、ボランティアグループなど、民間事業への委託ではないと思う。その前に、地域の中で指導者（担い手）になる人材育成の講座やスクール等を開催して、人を育てることが大事ではないか。 例えば、生活支援コーディネーター（SC）を中心に、あらゆる地域（南北中）に配置し、事業展開するなどが必要。 例年、SCは一人なのか。地域に入り推進していくには、複数のSCの確保が必要だと思う。
7	現状の制度やサービスで対応出来ないことだけに特化したボランティアグループの立ち上げは良いと思うのですが、例示に上がっていた入院中の対応（衣類、鍵、必要物品等のお届けや預かり）やペットの世話、通院の付き添い等、ボランティアレベルで行えるものなのか、十分な検討が必要だと思います。検討の結果は次に繋げる為の良い材料になると思います。

8	<p>・ある団地の高齢化問題について取り上げていたのをテレビで見たことがある。「おたすけ隊」というような名称だったと思いますが、まだまだ元気なお年寄りが助けてほしいお年寄りの所に行き、時給いくらかでお仕事をする。例えば電球の交換、家具の移動、ごみのまとめなど。ただボランティアではなかなか人は集まらないと思います。少しでも人の為になって、わずかでもお小遣い（ジュース代位）でも頂けるなら生きがいとなると思います。シルバー人材センターが例ですが、自治会でもっと身近で色々な事に対応出来る「おたすけ隊」があったら良いと思います。</p> <p>・民生委員として1人では出来ることはそれほどありません。またそれ以上に期待をされても困ってしまいます。自治会で話が出ましたが、毎年回る組長さんをご自分の組の安否や高齢者世帯の目配りなどを心掛ける事で、毎月の組長会で「この間〇〇さんの所に救急車が来ていた」などお話が出る様なことを意識するようになれば、皆で支え合えていく地域になれるかと思います。</p>
9	<p>②についての内容はとても良いと思います。ただし、今現在やっているボランティアの方々の活用、既存の団体との調整をしていくことが重要であると考えます。</p>
10	<p>地域住民同士の「助け合い」や「気かけ」は現代においては破綻していると感じます。助けられる人、助ける人、お互いが年齢的、体力的または経済的に大変な状況であると思います。したがって、私はそれらの問題をクリアするには民間企業などに移譲することだと考えます。企業はビジネスとしてとらえるため収益が見込めるのか否かを判断します。その収益が見込めるように、行政がサポートすればいいのではないのでしょうか。第三セクターなどの企画を考える時だと思えますし、そこから寒川町モデルの地域包括ケアシステムの始まりになっていけばと期待いたします。</p>